

民事訴訟実務の基礎 I

(Practices of Civil Procedure I)

1 学期 土曜 2・3 時限

授業時間：75 分×20 回

単位数：2 単位

履修年次：2 年次

担当教員：岡 伸浩

研究室：教員研究室 3

授業の到達目標：

- 1 通常民事訴訟における民事訴訟手続（上訴を含む）の構造を理解すること
- 2 上記 1 と関連して、民事訴訟法や民事訴訟規則の条文操作を修得すること
- 3 民事保全手続、民事執行手続の基本構造と民事訴訟手続との関連を理解すること
- 4 民事訴訟手続の実務の中で、民事訴訟法の重要論点を復習し、理論と実務の架橋を意識して、民事訴訟法理論が実務いかに反映されているかを具体的に理解すること

授業概要：

典型的な民事訴訟事件の記録を素材に、事件の相談・訴訟の準備、保全、訴えの提起から判決、控訴、上告さらには執行に至る民事訴訟実務における手続の基礎を学習する。その際、民事訴訟法の重要論点を手続の流れの中で位置づけ再確認する。また、具体的な事案をもとに事実関係の調査・把握、法的構成の仕方などを体験することによって、民事訴訟を動的に捉えることを学習する。授業は、双方向の内容を目指し、適宜質問を交えて、手続や問題点を真に理解できるよう配慮して進める。教科書として指定したテキストをもとに、民事訴訟実務の進行にあわせて実務上、理論上の諸問題を検討し、理解を深める。また、教員が弁護士として扱ったいくつかの実際の事案を例にとって、当該訴訟の実務上の問題点、処理方針、立証の工夫、判決の内容などを適宜紹介し、受講生の民事訴訟実務に対する理解を深める。1 年次に配置された民事訴訟法の確認とともに理論と実務の架橋を意識して、民事訴訟法実務への有意な橋渡しを目指す。講義の進行に合わせて、あらかじめ予告したうえで、小テストを実施する予定である。また、途中、司法研修所編・民事第一審手続の解説についてのビデオを放映して、具体的な手続のイメージの涵養に役立てる予定である。

評価方法：

- 1 筆記試験 60 パーセント
- 2 授業での質疑・参加態度・小テストの成績といった平常点 40 パーセント

教科書：

- (1) 加藤新太郎編「民事訴訟実務の基礎」(第 2 版) 弘文堂
- (2) 岡伸浩著「民事訴訟法の基礎」(第 2 版) 法学書院

参 考 書：

必要な資料は、随時適示する予定であるが、参考となる図書を掲げると次のとおりとなる。

- 1 基本論点等の確認として
 - (1) 中野貞一郎・松浦馨・鈴木正裕編「新民事訴訟法講義」(第2版補訂2版) 有斐閣
 - (2) 伊藤眞著「民事訴訟法」(第3版3訂版) 有斐閣
 - (3) 高橋宏志著「重点講義民事訴訟法(上)(下)」 有斐閣
- 2 基本的な判例の確認として
 - (1) 別冊ジュリスト「民事訴訟法判例百選」(第3版) 有斐閣
 - (2) ジュリスト増刊・伊藤眞・加藤新太郎編「判例から学ぶ・民事事実認定」 有斐閣
- 3 手続一般として
司法研修所編「民事訴訟第一審手続の解説」 法曹会
- 4 判決書について
司法研修所編「民事判決起案の手引」 法曹会
- 5 要件事実全般について
司法研修所編「問題研究 要件事実」 法曹会
司法研修所編・改訂「紛争類型別の要件事実」 法曹会
村田渉・山野目章夫編著「要件事実30講」(第2版) 弘文堂
- 6 立証および立証活動について
 - (1) 司法研修所編「四訂 民事弁護における立証活動」 日本弁護士連合会
 - (2) 東京弁護士会法友全期会「証拠収集実務マニュアル」 ぎょうせい
 - (3) 小野淳彦ほか編「民事裁判 証拠収集・立証の実務」 新日本法規
- 7 民事弁護一般について
司法研修所編「七訂 民事弁護の手引」 日本弁護士連合会
小島武司監修「実践 民事弁護の基礎」 雄松堂出版
- 8 尋問技術について
加藤新太郎編著「新版 民事尋問技術」 ぎょうせい
- 9 法律相談全般について
菅原郁夫ほか編「実践法律相談」 東京大学出版

授業計画：

各章は、上記教科書(加藤新太郎編「民事訴訟実務の基礎」)の章を示す。

- 第 1 回 民事紛争解決プロセスと手続の流れ(第1章)
- 第 2 回 相談(第2章)
- 第 3 回 民事保全(第3章)
- 第 4 回 民事訴訟の提起(第4章)
- 第 5 回 民事訴訟の開始(第5章)
- 第 6 回 民事訴訟の開始(第5章)
- 第 7 回 被告の応訴(第6章)

- 第 8回 第1回口頭弁論期日（第7章）
- 第 9回 第1回口頭弁論期日（第7章）
- 第10回 第1回口頭弁論期日（第7章）
- 第11回 弁論準備手続期日（第8章）
- 第12回 弁論準備手続期日（第8章）
- 第13回 第2回口頭弁論期日（第9章）
- 第14回 和解期日（第10章）
- 第15回 判決言渡し（第11章）
- 第16回 判決言渡し（第11章）
- 第17回 上訴（第12章）
- 第18回 民事執行（第13章）
- 第19回 民事訴訟手続の課題と展望（第14章）
- 第20回 全体の復習

以 上